

“みんなでつくる”義農公園再整備ニュースレター vol.4

1. 第4回ワークショップ (FINAL) 開催！ テーマ→未来：コンセプトづくり

最終回となる第4回ワークショップでは、当初予定していた「模擬ルールづくり」から方針を見直し、個別のルールを決める前に、それを支える“しくみ”や考え方の大枠（コンセプト）を共有する内容へと一部変更して実施しました。ワークショップでは、「義農公園を楽しむ5つのヒント（案）」を参考にボール遊びやイベント、自然の扱い方など具体的な使い方についても意見が交わされましたが、「ルール=禁止」にならないよう、「できること」や「お互いに調整する方法」をあわせて考えました。

2. 開催概要

日時：令和7年12月18日（火）17:00～18:30 会場：新立公民館

参加者：19名（子育て・現役世代／大学生／地元区長／シニア）アドバイザー：19名（伊予高生・地元関係団体・設計者ほか）



3. グループワーク「コンセプトづくり」→義農公園を育てる5つのヒント（次ページ参照）

①遊び（遊具）・チャレンジ Play & Challenge

「松前っ子のできたを見守り、思い出つむぐ公園」（対応するヒント：こどももおとなも育つ）
こどもが挑戦できる自由さを大切にしつつ、時間帯や道具の工夫などで安全に共存する考え方が共有されました。「なんでもあり」ではなく、周囲に配慮しながら遊ぶ責任ある自由を、みんなで支えていく姿勢が示されました。

②健康・スポーツ Wellness & Sports

「ルールにしばられない日常とスポーツの共存～自然とすみわけができるハードがほしい～」
(対応するヒント：体を動かす人も、ゆっくり過ごす人も)
散歩や体操をする人と、スポーツを楽しむ人が同じ公園を使うことへの工夫が話題になりました。ルールで縛るのではなく、ハードや時間の工夫によるゆずり合いの共存が大切だという認識が共有されました。

③くつろぎ・居場所 Relax & Place

「育てていける公園（一人一人が育っていく）」（対応するヒント：ふだんの暮らしの延長に）
義農公園は、日々の使われ方や関わりの中で、地域とともに育てていける公園でありたいという意見が出ました。ハードの工夫と利用者の自覚やすみわけによって、安心とおちつきをみんなで育てる居場所が大切だと共有されました。

④交流・にぎわい（防災） Community & Activity (disaster prevention)

「新しい松前のシンボルに」（対応するヒント：あつまる・にぎわう）
義農精神や季節を感じるイベントを通じて、世代を超えて学び合い、成長できる公園でありたいという意見が出ました。日常のにぎわいが、いざという時の助け合いや防災につながる、松前のシンボルとなる公園を目指す考えが共有されました。

⑤歴史・文化・自然 History, Culture & Nature

「義農をつなぐ・ひろめる」（対応するヒント：義農精神と松前らしさを次へ）
義農精神に込められた「利他」の心や、義農神社、祭りや桜など、松前ならではの文化や自然を大切にしたいという意見が多くありました。それらを学びの機会や発信と結びつけ、神社や公園の新しい関わり方を通して、次の世代へつないでいく場にしていきたいという考えが共有されました。

＼ワークショップのまとめ／ 義農公園を育てる 5 つのヒント

① 松前っ子が育つ

子どもの遊びは、成長のための大切な時間です。義農公園は、子どもの「できた」をおとなが見守り、ときに声をかけながら、ともに学び、挑戦を支える場所でありたいと考えます。自由でありつつ、周囲にも配慮する「責任ある自由」を、みんなで支えていく公園を目指します。

② ゆっくり過ごす人も、体を動かす人もゆるく共存

散歩を楽しむ人がいる一方で、思いきり体を動かす人がいる時間もあります。使う時間や場所をゆずり合いながら、それぞれのペースで体を動かせる公園でありたいと考えます。自然なすみわけ、思いやりで共存できる使い方を目指します。

③ いつもの居場所を育てる

義農公園は、ただただいられる、ふだんの暮らしの延長の「いつもの居場所」でありたいと考えます。使い方を決めすぎず、人それぞれの関わり方を受けとめる“余白”を残すことで、多様な過ごし方を育てていける公園を目指します。

④ あつまる・にぎわう、松前のシンボル

人が集い、顔を合わせ、声を交わす時間は、楽しさだけでなく、地域のつながりを育てていきます。こうした関係性は、いざという時に助け合える力にもなります。義農公園が、人の流れと記憶が重なり合う松前の「シンボル」として育っていくことを目指します。

⑤ 義農精神と松前らしさをつなぐ・ひろめる

義農精神に込められた「利他」の心や、義農神社、桜や松のある風景。義農公園には、松前ならではの文化と物語があります。それらを学びながら残し、今の時代に合ったかたちで、新しい物語へとつながっていく場所を目指します。

4. 事務局コメント・お礼のあいさつ

「過去から未来をつくる」というコンセプトのもと、義農公園の思い出を共有するところから本ワークショップは始まりました。タコのすべり台や地域のお祭りなどの記憶から、義農公園が人のつながりや時間を育んできた場所であったことが改めて確認され、これから公園を考える出発点となりました。

回を重ねる中で、誰がどのように使い、どう育していくかが重要であるという認識が共有されました。町だけでは対応しきれない柔軟な管理の必要性や、義農神社・水辺空間など課題を抱える要素についても、時間をかけて周辺エリアと一緒に育てていく視点が示されました。最終回では、ルールを支えるしくみや考え方を整理し、在り方検討の芯となるコンセプトとしてまとめました。これらは「義農公園を育てる5つのヒント」として再編しています。

最後に、全4回にわたるワークショップに御参加いただいた皆さま、貴重なご意見や思いを寄せてくださったすべての方に、心より感謝申し上げます。今回の対話で得られた気づきやつながりは、義農公園の再整備だけでなく、今後のまちづくりにとっても大切な財産です。本ワークショップを一つのきっかけとして、今後も立場や世代を超えた対話を重ねながら、義農公園をみんなで育てていく取り組みを発展させていきましょう！